

2024 年度 研究所事業報告書

研究所名	生存学研究所
------	--------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2024 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

人口減少・少子高齢化とグローバル化は、教育・研究に大きな変革をもたらし、本学園は「挑戦をもっと自由に (R2030)」を目指し、現代社会の多様な「生存」への対応を急務としている。生存学研究所は、2024 年度も継続して人間の「障老病異」とともに生きることを追求し、障害、老い、病い、異なる身体の状態を抱える人々の「当事者」性に焦点を当て、本学のプレゼンスを高める先端的な教育・研究実践を行った。これは、本学園の「未来を信じ、未来に生きる」精神に基づき、ダイバーシティとインクルージョンの実現に特に貢献している点である。以下に、アーカイビング、東アジア生存学拠点、支援テクノロジー開発、研究所叢書刊行の四つの柱となる研究ビジョン（重点プロジェクト）を通じた活動を報告する。

1. 生存学アーカイビング:

収集を進めている病・障害・医療・保健・福祉・公衆衛生などに関係する文書その他のデジタル化が進んだ。著作権法第 37 条第 3 項に基づく視覚障害者等のための複製・公衆送信が認められる者への登録の準備が整った。岩田京子 研究員らの尽力により書庫における機関紙概要目録、報告書概要目録が完成した。寄贈を受けた関係資料の整理も進んだ。生存学研究所サイト arsvi.com に 451 ページが更新され、海外からの約1万アクセスを含め 56 万ユーザーのアクセスがあり、国際的なアーカイブサイトであり続けている。

2. 東アジア生存学拠点形成:

グローバルシティズンシップに向けた主体的な研究教育実践として、東アジア生存学拠点を形成した。2024 年度には、障害者権利条約のその後とそれを越えた研究を中心に研究を進めた。その成果は、2024 年 10 月 25-6 日に台北にて昨年度から対面開催が再開された障害学国際セミナー2024 で、「障害者権利条約のその後とそれを越えて——解釈、履行、含意」をテーマとして研究報告し、研究所の関係者が多数登壇して交流の機会となった。

3. 支援テクノロジー開発:

ダイバーシティ社会を実現するテクノロジーの社会実装を目指して「当事者」とともにデザインの上流から関わった。2024 年度は①9 月に OIC で Asia Week に出展、10 月に BKC ウェルカムデーに出展、②障害学国際セミナーにおける移動アクセシビリティ実践、③APU での WHILL モデル F を用いた実証実験を行った。広く一般市民に向け、企業と連携する機会も得た。美馬達哉による基盤A「クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生」を継続して行っている。

4. 立命館生存学研究所叢書の刊行:

2024 年度は、一時も途切れることなく研究所の web サイトに掲載されてきた「研究の現場」をまとめた刊行物を公刊するべく順調に準備をすすめ、2025 年度早々、4 月中にも、臨川書店より『知は分断をこえる——生存をめぐる研究の現場』（立命館大学生存学研究所監修、川端美季・伊東香純共編）が公刊される運びとなった。本書は、生存学研究センター監修『知のフロンティア』（2017）、生存学研究所監修『知と実践のブリコラージュ』（2020）の続編に当たるものである。ほかに、研究所関係社による多数の書籍や論文が国内外で刊行され、叢書刊行プログラムの今後を示した。

以上の通り、2024 年度の活動では、生存学研究所を新 MLA (Museum/Library/Archive) 構想の一部として発展させ、本研究所の知見を広く社会に還元し大学が地域社会に開かれた知の拠点であることを活かすべく取り組んできた。R2030 における衣笠キャンパスの研究活動の中核とすることを目指し、おおむね計画通り達成することができた。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
研究所長	大谷いづみ	産業社会学部	教授	
運営委員	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授	
	後藤 基行	先端総合学術研究科	准教授	
	川端 美季	衣笠総合研究機構	准教授	
	伊東 香純	衣笠総合研究機構	准教授	
	小川 さやか	先端総合学術研究科	教授	
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授	
	後藤 智	経営学部	准教授	
	桜井 啓太	産業社会学部	准教授	
	桜井 政成	政策科学部	教授	
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授	
	塩見 康博	理工学部環境都市工学科	教授	
	鎮目 真人	産業社会学部	教授	
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	教授	
	富永 京子	産業社会学部	准教授	
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	上席研究員	
	永浜 明子	スポーツ健康科学部	准教授	
	西 成彦	衣笠総合研究機構	上席研究員	
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	姫野 友紀子	生命科学部生命情報学科	助教	
	松尾 匡	経済学部	教授	
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授	
	村本 邦子	人間科学研究科	教授	
	望月 茂徳	映像学部	教授	
	安田 裕子	総合心理学部	教授	
	やまだ ようこ	OIC 総合研究機構	上席研究員	
学内教員	宮脇 正晴	法学部	教授	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	飯田 奈美子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		岩田 京子	衣笠総合研究機構	研究員
		中村 雅也	衣笠総合研究機構	専門研究員
		シン ジュヒョン	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	中井 良平	衣笠総合研究機構	博士課程後期課程
	③ 大学院生	森下 摩利	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		國近 歩	先端総合学術研究科	一貫制博士課程

玉置 ふくら	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
西本 春菜	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
FENG Yunlong	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
井川 仁美	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
田場 太基	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
田中 秀典	社会学研究科	博士課程前期課程
各務 勝博	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
小辻 映里	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
白杉 眞	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
谷口 俊恵	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
植木 是	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
小井戸 恵子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
小林 孝子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
坂野 久美	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
増田 洋介	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
YOO Jin-kyung	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
大木 えりか	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
木戸口 峻	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
阿部 俊彦	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
中田 明子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
古川 奈穂	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
伊波 弘幸	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
栗川 治	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
平安名 萌恵	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
坂本 唯	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
有松 玲	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
清水 一輝	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
高橋 初	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
高橋 みどり	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
長澤 奈緒子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
鈴木 悠平	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
西岡 知香	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
宮本 敬太	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
篠田 紀一郎	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
宇津木 三徳	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
竹村 文子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
種村 光太郎	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
山口 和紀	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
CHEN Kewei	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
池谷 政直	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
大矢 雅之	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
押元 麻美	先端総合学術研究科	一貫制博士課程

		山本 由紀子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		大屋 未輝	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)	坂井 めぐみ	先端総合学術研究科	日本学術振興会特別研究員 RPD
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)		駒澤 真由美	先端総合学術研究科	研究指導助手
		佐藤 量	先端総合学術研究科	非常勤講師
		藤原 信行	先端総合学術研究科	非常勤講師
		密田 逸郎	産業社会学部	非常勤講師
		村上 潔	先端総合学術研究科	非常勤講師
		吉野 靱	先端総合学術研究科	研究指導助手
		酒井 春奈	障害学生支援室	支援コーディネーター
客員協力研究員		青木 慎太郎	大阪市立大学都市研究プラザ	特別研究員
		安部 彰	三重県立看護大学	准教授
		荒井 裕樹	二松学舎大学文学部国文学科	准教授
		有田 啓子	世界人権問題研究センター	客員研究員
		有吉 玲子	アルタンジョラー 金沢星稜大学	非常勤講師
		アンジェリーナ・チン	ポモナ大学	准教授
		石岡 亜希子	早稲田大学自動車・部品産業研究所	招聘研究員
		一宮 茂子		客員研究員
		金重 政玉	NPO 法人わっぱの会 北区障害者基幹相談支援センター	相談支援専門員
		篠木 涼	公益財団法人稲盛財団	職員
		松枝 亜希子		客員研究員
		川田 薫	株式会社サーベイリサーチセンター	
		長谷川 唯		
		桶河 華代	毎日新聞大阪編集局 兼 企画業務部	
		大野 光明	滋賀県立大学	准教授
		安積 宇宙	Junior Research Fellow	
		岡本 晃明	京都新聞東京支社	編集部長
		井上 武史	特定非営利活動法人メインストリーム協会	職員
		浦田 悠	大阪大学全学教育推進機構 教育学習支援部	特任講師
		大久保 豪	株式会社 BMS 横浜	代表取締役

	太田 啓子	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター附属看護学 校	非常勤講師
	太田 智加子	東京理科大学	准教授
	大貫 菜穂	京都造形芸術大学	非常勤講師
	高阪 悌雄	青森県立保健大学	教授
	尾上 浩二	特定非営利活動法人DPI日本 会議	アドバイザー
	勝井 久代	ヘルシンキ大学(フィンランド)	准教授
	葛城 貞三	特定非営利活動法人ALSしが ネット	理事長
	加藤 有希子	埼玉大学基盤教育研究センタ ー	准教授
	角崎 洋平	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	河合 翔	立命館大学衣笠総合研究機 構	客員研究員
	河口 尚子	名古屋市立大学	非常勤講師
	川口 有美子	有限会社ケアサポートモモ	代表取締役
	金 政玉	アイデア・フロント株式会社	
	桐原 尚之	同志社大学	日本学術振興会特別 研究員 PD
	小林 勇人	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	後藤 悠里	福山市立大学都市経営学部	特任講師
	権藤 真由美	立教大学	障害学生支援室
	櫻井 悟史	滋賀県立大学人間文化学部 地域文化学科	准教授
	笹谷 絵里	花園大学 社会福祉学部	専任講師
	貞岡 美伸	京都光華女子大学	教授
	篠原 眞紀子	鳴門教育大学・大阪国際大学	非常勤講師
	柴垣 登	岩手大学教育学部	教授
	志水 洋人		客員研究員
	鍾 宜錚	大谷大学真宗総合研究所東 京分室	PD 研究員
	末田 邦子	愛知淑徳大学	准教授
	鈴木 陽子	沖縄愛楽園交流会館	学芸員
	瀬山 紀子	明治大学	兼任講師
	孫 美幸	文教大学国際学部	准教授
	高橋 慎一	花園大学人権教育研究センタ ー	
	高橋 涼子	金沢大学人間科学系／地域 創造学類	教授

	田中 真美		ソーシャルワーカー
	谷田 朋美	毎日新聞社	記者
	鶴田 雅英	社福)東京コロニー東京都大田福祉工場	課長代理
	土肥 いつき	京都府立城陽高校	教諭
	利光 恵子	女性のための街かど相談室「ここ・からサロン」	相談員
	土橋 圭子	子どもの社会での学びの場 NPO Happy Smile	代表
	中尾 麻伊香	広島大学	助教
	中倉 智徳	千葉商科大学	准教授
	永田 美江子	平安女学院大学	教授
	中村 江里	慶応義塾大学	准教授
	永山 博美		看護師
	新山 智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクト (ProjectSCOBUE)	幹事
	野口 友康	特定非営利活動法人予防接種被害者をささえる会	代表理事
	能勢 桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
	萩原 三義	相生鍼灸	院長
	萩原 浩史	会福祉法人加島友愛会	支援課長
	橋本 明	愛知県立大学	教授
	橋口昌治	大谷大学	講師
	原 昌平	相談室ぱどる／ぱどるの行政書士事務所	代表
	番匠 健一	同志社大学<奄美・琉球・沖縄>研究センター	研究員
	樋澤 吉彦	名古屋市立大学大学院人間文化研究科	教授
	平岡 久仁子	帝京平成大学	非常勤講師
	藤岡 毅	藤岡毅法律事務所	弁護士
	藤木 和子	法律事務所シブリング	代表弁護士
	藤原 良太		主事
	細谷 幸子	国際医療福祉大学成田看護学部	教授
	ホワニジャン・アストギク	ロシア・アルメニア大学人文学部世界史・地域研究学科	上級講師
	増田 英明	一般社団法人日本 ALS 協会	相談役
	町田 奈緒士	奈良女子大学・近畿大学	非常勤講師
	田中 恵美子	東京家政大学	教授

松岡 弘之	岡山大学	講師
松波 めぐみ	大阪市立大学	非常勤講師
松本 理沙	北陸学院大学人間総合学部 子ども教育学科	講師
三島 亜紀子	同志社大学	嘱託講師
宮原 資英	JapanCenterforEvidenceBased Practice	教授
安田 真之	NPO 法人ゆに	障害学生支援アドバイザー
山田 裕一	特定非営利活動法人凸凹ライ フデザイン事業部	センター長
山本 由美子	大阪府立大学人間社会システ ム科学研究科	准教授
梁 陽日	同志社大学	嘱託講師
横田 陽子		客員研究員
吉田 幸恵	兵庫医療大学	講師
吉村 夕里	武庫川女子大学大学院	非常勤講師
頼尊 恒信	真宗大谷派聞稱寺	副住職
田邊 健太郎	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
長瀬 修	衣笠総合研究機構	上席研究員
甲斐 更紗	一橋大学 保健センター	障害学生支援チーフ コーディネータ
仲尾 謙二	先端総合学術研究科修了生/	客員研究員
保明 綾	マンチェスター大学	講師
鈴木 雅子		
丹波 博紀	大正大学	任期制専任講師
橋口 昌治	大谷大学	任期制講師
宮崎 宏志	岡山大学	准教授
山本 勝美	東京都保健所心理相談員協 議会	会長
谷田 朋美	毎日新聞	記者
玉井 隆	東京女子大学	准教授
宮川 悠太	認定 NPO 法人 水俣フォーラ ム	理事長
臼井 久美子	障害者欠格条項をなくす会	事務局長
栗原 敦	MMR(新 3 種混合ワクチン)被 害児を救援する会	事務局長
加藤 旭人	名古屋市立大学	教授
榊原 賢二郎	国立社会保障・人口問題研究 所	社会保障応用分析研 究部第三室長
堀川 諭	京都産業大学	准教授
栄 エツコ	桃山学院大学	教授

	姜 文姫	立命館大学	非常勤講師
	番匠 健一	社会理論動態研究所	研究員
	李 金灯	国立民族学博物館	外来研究員
	金城 美幸	愛知学院大学	非常勤講師
	佐藤 沙織	尾道市立大学	准教授
	佐藤 伸彦		
	柏崎 郁子	東京女子医科大学	講師
	戸田 真理	京都光華女子大学	助教
	崔 玉金	国民年金研究院	専任研究委員
	住田 朋久	慶應義塾大学	訪問研究員
	秋葉 峻介	山梨大学	講師
	倉田 研一		
	幸 信歩	岡山医療専門職大学	教授
	戸田 聡一郎	東北大学	専門研究員
	西川 純司	神戸松蔭女子学院大学	准教授
	谷藤 真琴	岩手県立大学	准教授
	田中 多賀子	社会福祉法人なごみ福祉会	言語聴覚士
	渡部 沙織	東京大学医科学研究所	特任研究員
	山田 由紀		
	高木 美歩	EUREKA 京都 L&T Lab.	発達支援セラピスト
	勝村 久司	大阪府立野崎高等学校	再任用教頭
	周 怡君	台湾・東呉大学	教授
	黄 丹	重慶財経学院	講師
	玉木 幸則	一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク	代表理事
	黄 芳誼	台湾・東呉大学	准教授
	葉 崇揚	台湾・東呉大学	教授
	北島 加奈子		独立研究者
	堀 智久	名寄市立大学	准教授
	山下 幸子	淑徳大学	教授
その他の学外者	青木 千帆子	筑波技術大学	特任助教
	青山 薫	神戸大学	客員研究員
	天田 城介	中央大学	教授
	有菌 真代	龍谷大学	職員
	安藤 道人	立教大学	非常勤講師/ プロジェクト研究員
	市野川 容孝	東京大学	教授
	岩永 理恵	日本女子大学	教授

	榎藤 真由美	中央大学障害学生支援室	支援コーディネーター
	田島 明子	湘南医療大学	教授
	窪崎 泰紀	特定非営利活動法人ゆに	理事
	櫻田 武	成蹊大学理工学部	准教授
	田中 耕一郎	北星学園大学	准教授
	土屋 葉	愛知大学	准教授
	天畠 大輔		参議院議員
	廣野 俊輔	同志社大学	准教授
	深田 耕一郎	女子栄養大学	教授
	三井 さよ	法政大学	教授
	矢野 亮	長野大学	教授
	安 孝淑	京都 MBI カルチャースクール	講師
	渡辺 克典	徳島大学	准教授
	張 恒豪	国立台北大学社会学部	教授
	張 万洪	国立武漢大学法学院	教授
	テレジア・デゲナー	プロテスタント・ボーフム応用科学大学	教授
	呉 達明	香港大学	准教授
	芝田 純也	新潟福祉大学	教授
研究所構成員 計 253 名 (うち学内の若手研究者 計 52 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2025年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	川端美季	風呂と愛国——「清潔な国民」はいかに生まれたか	単著	2024年10月	NHK 出版新書		PP. 1~236
2	美馬達哉	『未来世界を哲学する8 社会防衛と自由の哲学』	編者(編著者)	2024年6月	丸善出版責任編者解題		PP. 175 - 185
3	美馬達哉	『臨床と生政治——〈医〉の社会学』	単著	2024年10月	青土社		PP. 1-420
4	美馬達哉	『未来世界を哲学する2 働き方と暮らし方の哲学』	編者(編著者)	2024年10月	丸善出版責任編者解題		PP. 177-187
5	美馬達哉	『無知学への招待 〈知らないこと〉を問い直す』	分担執筆	2025年2月	明石書店「COVID-19 パンデミックと無知」		PP. 299-305
6	美馬達哉	『グローバルリスク・ダイナミクス』	分担執筆	2025年3月	晃洋書房「グローバルリスク時代の否定論とポストトゥルース——戦略としての無知」		PP. 109-128
7	美馬達哉	『岩波講座 社会学8 医療・ケア・障害』	分担執筆	2025年3月	岩波書店「医療化のレトリック」		PP. 187-215
8	富永京子	「ビックリハウス」と政治 関心の戦後史——サブカルチャー雑誌がつくった若者	単著	2024年7月	晶文社		

		共同体					
9	小川さやか	「[対談]小川さやか×ツバメアーキテクト 「現代の長屋を成立させる条件のデザイン」」	単著	2024年4月	ツバメアーキテクト『ふたしかさを生きる道具』, TOTO 出版		pp. 129-232
10	小川さやか	「2人はどのようにつながるのか(第1章公共の扉1公共と人)」	単著	2024年4月	『高等学校公民 公共』, 教育図書株式会社		pp. 8-9
11	小川さやか	「タンザニア人に学ぶ不確実な未来を生き抜く知恵」	単著	2025年3月	『高校生と考える未来への想像力』, 左右社		pp. 359-364
12	後藤基行	医療・ケア・障害	共著	2025年3月	岩波書店	北田暁大, 岸政彦, 筒井淳也, 丸山里美, 山根純佳, 前田拓也	PP. 239-258
13	後藤基行	我が国の精神保健福祉	共著	2025年3月	日本公衆衛生協会		PP. 15-46
14	安田裕子	文化心理学と記号圏—ミクロとマクロのせめぎあいを捉える(谷口忠大(編), 記号創発システム論—来るべきAI 共生社会の「意味」理解にむけて)	共著	2024年9月	新曜社	宮下太陽	
15	安田裕子	TEA と質的探究用語集	共著	2025年3月	誠信書房	サトウタツヤ・安田裕子(監修) 中坪史典・土元哲平・上川多恵子・中本明世・加藤望	PP. 1-254
16	安田裕子	TEA (サトウタツヤ・安田裕子(監修) 中坪史典・土元哲平・上川多恵子・中本明世・加藤望(編), TEA と質的探究用語集)	単著	2025年3月	誠信書房		2-2 頁
17	安田裕子	TLMG (サトウタツヤ・安田裕子(監修) 中坪史典・土元哲平・上川多恵子・中本明世・加藤望(編), TEA と質的探究用語集)	単著	2025年3月	誠信書房		5-5 頁
18	松尾匡	反緊縮社会主義論—脱成長論と帝国主義の超克	単著	2024年7月	あけび書房		PP. 1-286
19	千葉雅也	センスの哲学	単著	2024年4月	文藝春秋		PP. 1-251
20	村本邦子	心理支援における社会正義アプローチ(第三章心理支援におけるフェミニスト・アプローチ,)	分担執筆	2024年9月	誠信書房	和田香織・杉原保史・井出智博・蔵岡智子	pp36-50
21	村本邦子	婦人相談員物語—その証言から女たちの歴史(herstory)を紡ぐ	共著	2024年10月	国書刊行会	松本周子	
22	高橋慎一	精神科医療における暴力とケア	共著	2024年9月	金剛出版	下里誠二	pp. 211-225
23	三島亜紀子	ちりましほのイタクラマツ	単著(文)	2025年2月	公益財団法人アイヌ民族文化財団	(絵) みしまえつこ	
24	山本由美子	生命と科学技術と社会: 21世紀の生命操作と意思通りにはさせぬ生き物の巧み 発生/生殖/クローニング編	単著	2025年3月	大阪公立大学出版会		総120頁
25	秋葉峻介	生/死をめぐる意思決定の倫理—自己への配慮、あるいは自己に向けた自己の作品化のために	単著	2024年8月	晃洋書房		
26	秋葉峻介	概説 生命倫理学	共編著	2025年3月	大学教育出版	三重野雄太郎	編集 第2章 (15-31)

							第4章 (49-64)
27	青木慎太郎	視覚障害者(児)福祉の制度とサービス	共著	2025年2月	『新版 同行援護⑩号車養成研修テキスト』中央法規出版	中野泰志 他	pp. 41-53
28	青木慎太郎	同行援護の制度	共著	2025年2月	『新版 同行援護⑩号車養成研修テキスト』中央法規出版	中野泰志 他	pp. 54-62
29	丹波博紀	「わからなさへの定位 最首悟と滝沢克己」 滝沢克己協会編『滝沢克己の現在 没後40年記念論集』	単著	2024年5月	新教出版社		pp. 309-329
30	藤岡毅	こどもの権利ガイドブック【第3版】各論7章「障害のある子どもの権利」	共著	2024年11月30日	日本弁護士連合会・明石書店	日本弁護士連合会子どもの権利委員会	PP241 ~ PP291の全体監修と一部執筆
31	北島加奈子	障害者の倫理——フーコーからパラリンピックまで	単著	2025年3月	晃洋書房		
32	孫美幸	教育とケアへのホリスティック・アプローチ：共生/癒し/全体性	共著	2024年7月	勁草書房	吉田敦彦, 河野桃子編著, 永田佳之, 曾我幸代, 池田華子, 奥本陽子, 森岡次郎, 西村拓生, 青木芳恵, 福若真人 共著	
33	Katsui, Hisayo	Disability	単著	2025年3月	Elgar Encyclopedia of Social Work		
34	Tatsuya Sato	An introduction to the Trajectory Equifinality Approach to cultural psychology	単著	2024年4月	TLU Press		211-228
35	Tatsuya Sato	The “Garden Project” : Initiating International Cultural Exchange Through Gardens	共著	2024年5月	Information Publishers Age	Tepei Tsuchimoto, Yuki Saito, Misato Furuse	363-376
36	Tatsuya Sato	Reflecting on Oneself and Garden: Projecting Happy Memories Into the Future	共著	2024年5月	Information Publishers Age		400-402
37	サトウタツヤ	血液型性格の歴史的展開	単著	2024年9月	福村出版		10-25
38	サトウタツヤ	文化心理学への招待：記号論的文化心理学	共訳	2024年10月	誠信書房	滑田明暢・土元哲平・宮下太陽 監訳	1-320
39	サトウタツヤ	学習マッピング：動物の行動から人間の社会文化まで	共編	2024年10月	新曜社	青山征彦・古野公紀	1-248

2. 論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Tatsuya Mima	Case report: An N-of-1 study using amplitude modulated transcranial alternating current stimulation between Broca's area and the right homotopic area to improve post-stroke aphasia with increased inter-regional synchrony.	共著	2024年	Frontiers in human neuroscience 18	Erika Omae, Atsushi Shima, Kazuki Tanaka, Masako Yamada, Yedi Cao, Tomoyuki Nakamura, Hajime Hoshiai, Yumi Chiba,	PP. 1297683	有

						Hiroshi Irisawa, Takashi Mizushima, Tatsuya Mima, Satoko Koganemaru		
2	Tatsuya Mima	Tackling social anxiety with targeted brain stimulation: investigating the effects of transcranial static magnetic field stimulation on self-focused attention.	共著	2024年	Frontiers in behavioral neuroscience 18	Nozomi Tomita, Hiroki Katayama, Yuto Kurihara, Toru Takahashi, Sumiya Shibata, Tatsuya Mima, Rieko Osu, Hiroaki Kumano	PP. 1373564	有
3	美馬達哉	『疫病と世界史』 文系・理 系の枠を超えて楽しめる歴史 書』	単著	2024年5 月	現代思想 52(8)		PP. 8-12	無
4	Tatsuya Mima	TMS-EEG signatures of the effects of transcranial static magnetic field stimulation (tSMS) on cortical excitability.	共著	2024年9 月	Scientific reports 14(1)	Sumiya Shibata, Hideaki Onishi,	PP. 22394	有
5	美馬達哉	『臨床神経生理学の観点から みたミオクロームスの病態と 治療』	単著	2024年 11月	科学評論社脳神経内科 101(5)		PP. 576-582	無
6	美馬達哉	「大腸は墓場か？ プトマイ ン説」	単著	2024年 11月	青土社現代思想 53(1)		PP. 148-157	無
7	Tatsuya Mima	Tips for quality publishing; lessons from the neuroscience editorial team.	共著	2025年3 月	Neuroscience 572	Francesca Cirulli, Rachael Dangarembezi , Victor de Lafuente, Anthony J Hannan, Amanda C Kentner, Tatsuya Mima, Laurel Morris, Sarah J Spencer, Long-Jun Wu, Chen Zhang	PP. 68-72	有
8	伊東香純	Between Global North and South : Global Grass-Roots Movements of People with Psychosocial Disabilities in East Asia	単著	2024年5 月	Pluto JournalsInternational Journal of Disability and Social Justice 4(1)		PP. 99-116	有
9	伊東香純	書評：『不如意の身体』 『病 障害とある社会』	単著	2025年1 月	Informa UK LimitedEast Asian Science, Technology and Society: An International Journal 19(1)		PP. 130-134	無
10	後藤基行	書評 渡部沙織著『難病政策の 形成と変容ー疾患名モデルに	単著	2024年4 月	社会福祉研究		PP. 116	無

		よる公費医療のメカニズム』						
11	後藤基行	優生保護法違憲判決と強制不妊手術関係資料の廃棄・黒塗り・アクセス困難問題—ヘルスケアアーカイブズの保存と利活用に向けて	単著	2024年8月	響き合う街で		PP. 28-38	無
12	後藤基行	鼎談：記録・資料を未来に生かす—ヘルスケアアーカイブズのこれから	単著	2024年8月	響き合う街で		PP. 39-47	無
13	後藤基行	「旧優生保護法」— 医療・福祉の中の人権侵害	単著	2024年10月	月刊金融ジャーナル		PP. 34-35	無
14	後藤基行	ライシャワー事件が精神医療政策へ与えた影響は大きかったのか？	単著	2025年3月	公衆衛生情報		PP. 12-14	無
15	後藤基行	書評 岡田靖雄『優生保護法の時代を生きる—ある精神科医の戦後史—』	単著	2025年3月	心と社会		PP. 104-105	無
16	松原洋子	「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」	単著	2025年1月	東大科哲の会『科哲』（26）		PP. 9-14	無
17	大谷いづみ	生命と倫理—『虎に翼』『燕は戻ってこない』『PLAN 75』『Maelstrom』を通して	単著	2024年8月	『臨床心理実験サイババルガイド』（臨床心理学増刊第16号）	岩壁茂編	PP32. ~38	無
18	大谷いづみ・川端美季	特集趣旨	共著	2025年2月	『立命館生存学研究』vol. 8		pp. 5~7	無
19	大谷いづみ・川端美季	『PLAN 75』トークセッション	共著	2025年2月	『立命館生存学研究』vol. 8	その他著者名：早川千絵・斎藤真央	pp. 9~17	無
20	富永京子	「言葉遣い」から離れた社会運動はいかにして可能か—プロテスト・キャンプとしての高山建築学校の実践から	単著	2024年11月	現代思想		PP. 69-77	無
21	宮脇正晴	不使用取消場面における商標的使用の要否	単著	2024年4月	新・判例解説 WATCH		(34), 269-272	無
22	宮脇正晴	知的財産法判例の動き	単著	2024年5月	令和5年度 重要判例解説		241-246	無
23	宮脇正晴	結合商標の類否判断 [知財高判令和5・11・30裁判所ウェブサイト]	単著	2024年5月	法学セミナー		(832), 118-119	無
24	宮脇正晴	住宅地図の著作物性と保護範囲	単著	2024年6月	著作権研究		(49), 187-201	無
25	宮脇正晴	知的財産をめぐる法的問題とその調べ方	単著	2024年10月	法学セミナー		(837), 2-7	無
26	宮脇正晴	AI は特許法上の発明者といえるか [東京地判令和6・5・16判タ 1521号241頁]	単著	2024年11月	法学セミナー		(838), 106-107	無
27	宮脇正晴	米国における知財の動き（商標法・不正競争法）	単著	2025年1月	高林龍三・三村量一・上野達弘編『年報知的財産法 2024-2025』		221-224	無
28	小川さやか	臨床知でテクノロジーを飼いならす	単著	2024年6月	『アステイオン』、公益財団法人サントリー文化財団、100号		pp. 113-118, 352	無
29	小川さやか	『エンデの遺言』社会を変えるお金	単著	2024年6月	『現代思想 6月臨時増刊号 15歳からのブックガイド』、青土社、第52巻8号		pp. 155-160	無
30	小川さやか	『利他的な脳』が世界を救う—対談：福岡伸一（生物学者）	単著	2024年7月	『週刊文春』、文藝春秋、第66巻28号		pp. 54-57	無
31	小川さやか	「情報テクノロジーを駆使したマルチサイトッド民族誌」	単著	2024年12月	『社会人類学年報』、東京都立大学社会人類学会、50巻		pp89-99	有
32	後藤智	負の循環を生む組織アイデンティフィケーションの課題と	単著	2024年11月	立命館経営学		PP. 69-83	無

		展望 -創造的視点から						
33	後藤智	When does team identification pertain to creative problem-solving process?	共著	2025年3月	Creativity and Innovation Management	Hikaru Makino, Takuo Ando and Kazaru Yaegashi		有
34	塩見康博	地方都市の路線バスにおける全国共通交通系 IC カードの導入に関する研究	共著	2024年	土木学会論文集 D3	山本翔太	PP. 79	有
35	姫野友紀子	「ロックトイン・シンドロームの人びとの経験に関する研究」の活動報告 ① Neuroethics 2024 (国際神経倫理学会年次大会) で優秀ポスター賞を受賞しました!	単著	2024年7月	さくらんぼ便り 100号		PP. 1-3	無
36	姫野友紀子	「ロックトイン・シンドロームの人びとの経験に関する研究」活動報告 ②「私は閉じ込められているのですか?」日本とヨーロッパの閉じ込め症候群の人びとの病の軌跡と経験	単著	2024年7月	さくらんぼ便り 101号		PP. 1-2	無
37	姫野友紀子	「ロックトイン・シンドロームの人びとの経験に関する研究」活動報告 ③国際シンポジウム Participation (Un)plugged: Exploring Dignity and Disability through Human-Robot Interaction「参加の(非)解放: 人間とロボットの相互作用を通じた尊厳と障害の探索」を開催しました	単著	2024年8月	さくらんぼ便り 102号		PP. 1	無
38	姫野友紀子	スペイン・タラゴナ滞在記	単著	2024年10月	さくらんぼ便り第104号		PP. 1-1	無
39	姫野友紀子	シリーズ スペイン・タラゴナ滞在記2	単著	2024年12月	さくらんぼ便り第106号		PP. 1-3	無
40	安田裕子	日本のホスピタリティ産業における外国人材の自己概念の変容プロセス—沖縄の外国人材4名の事例分析	共著	2024年6月	TEA と質的探究	宮城貴子	2(1), 17-38頁	有
41	安田裕子	共食を通じた結婚初期夫婦の関係構築過程—TEM のイメージネーションモデルを用いた一考察	共著	2024年10月	TEA と質的探究	上川多恵子・宮下太陽・サトウタツヤ	2(1), 156-177頁	有
42	安田裕子	日本語学習意欲と学習行動の乖離の広がりの様相—バン格拉デシュ IT 人材の語りをもとに	共著	2024年10月	TEA と質的探究	小山多三代	2(1), 116-130頁	有
43	安田裕子	TEA における分岐点分析との提案と描き方—記号論的文化心理学に基づく質的研究法の新展開	共著	2025年3月	質的研究と社会実装	中田友貴・福山未智・サトウタツヤ	PP. 2	無

44	安田裕子	出産の語りをいかに聴くかーより深く聴き、ケアにむすぶために(特集 出産の語りを聴くー6人の女性による「私のお産」のストーリー)	単著	2025年3月	助産雑誌		79(2), 150-155頁	無
45	桜井啓太	桐生市生活保護違法事件全国調査団による調査・分析から見えてきた実態	単著	2024年12月	東京：自治体研究社住民と自治 = Jumin to jichi monthly / 自治体問題研究所編(740)		PP. 11-14	無
46	桜井啓太	大学生等の貧困に日本の福祉行政はなにをしてきたか	単著	2024年12月	賃社編集室賃金と社会保障 = Wage & social security (1864)		PP. 11-13	無
47	桜井啓太	桐生市の事件から考える、生活保護行政の現在	単著	2025年1月	大阪：大阪福祉事業財団；2000-福祉のひろば / 総合社会福祉研究所編 298		PP. 26-29	無
48	桜井政成	書評 吉武由彩著『匿名他者への贈与と想像力の社会学：献血をボランティア行為として読み解く』	単著	2024年	福祉社会学研究(21)		PP. 265-269	無
49	桜井政成	デュイ理論における体験型福祉教育へ示唆する命題の特定と検証：「経験」・「反省」概念への着目から	単著	2024年	日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要 42		PP. 32-45	有
50	桜井政成	地域福祉における社会的企業の役割と可能性	単著	2024年4月	鉄道弘済会社会福祉研究(149)		PP. 2-8	無
51	Masanari Sakurai	Preference for solitude paradox: The psychological influence of social isolation despite preference	共著	2024年8月	Journal of Affective Disorders 365	Ryota Sakurai, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara	PP. 466-473	有
52	桜井政成	質的研究における再帰性(リフレキシビティ)実践の議論ーナラティブレビューによる整理と今後の展望ー	単著	2024年10月	政策科学 32(1)		PP. 143-155	無
53	村本邦子	周辺からの記憶 43 2021年度シンポジウム「被災と復興の証人 11年の足跡とこれから」	単著	2024年6月	対人援助学マガジン 15(1)		98-123	無
54	村本邦子	臨床社会学の可能性ーいままでとこれからを考えながら	単著	2024年6月	立命館産業社会論集 60(1)		85-120	無
55	村本邦子	周辺からの記憶 44 2022年6月 福島フィールドワーク	単著	2024年9月	対人援助学マガジン 15(2)		124-143	無
56	Kuniko Muramoto	Efforts to Heal the Transgenerational Trauma of Nanjing	単著	2024年11月	New England Journal of Public Policy 36(2)		Art 24 -1-4	有
57	村本邦子	周辺からの記憶 45 2022年度 東日本・家族応援プロジェクト+	単著	2024年12月	対人援助学マガジン 15(3)		100-124	無
58	村本邦子	「新型コロナワクチン後遺症患者の会」の声を聴くー心理士として知っておきたいこと	単著	2024年12月	マイクロカウンセリング研究 17		39-53	有
59	村本邦子	周辺からの記憶 46 2022年 双葉町のこと	単著	2025年3月	対人援助学マガジン 15(4)		135-146	無
60	村本邦子	性と暴力ー時と知を継ぐために	共著	2025年3月	金剛出版臨床心理学 25(2)	信田さよ子	159-168	無
61	鎮目真人	韓国・基礎年金における発展の方向性ー基礎年金と国民年金との関係性を考慮に入れてー	共著	2025年3月	立命館産業社会論集	崔玉金	1-14頁	無
62	保明綾	Decentring Histories of Science Diplomacy: Cases from Asia	共著	2024年12月	British Journal for the History of Science. 57, Special Issue 2	Barrett, G.	pp. 165-173	有
63	保明綾	Concluding Conversation: Decentring Science	共著	2024年12月	British Journal for the History of Science. 57,	Barrett, G.	pp. 273-285	有

		Diplomacy			Special Issue 2			
64	村上潔	〈東京こむうぬ〉の挫折を捉える視角——総括と評価との接合から見る	単著	2024年11月	青土社, 現代思想, 52巻18号		pp. 148-161	無
65	奥山佳子	Analyzing Mutsuo's Debut Manga: A Patient Perspective on Mental Illness and Recovery	共著	2024年12月	<i>Hawai'i Journal of the Humanities</i>	Chris Kai-Jones	全部(オンラインに寄りページなし)	有
66	奥山佳子	<i>Love's in Sight: Japan's Graphic Narrative of Blindness</i>	共著	2024年8月	.Vol. 19, Issues 3&4, <i>The Review of Disability Studies</i>	栗川修	全部(オンラインに寄りページなし)	有
67	奥山佳子	Japanese Religion in Film	単著	2024年8月	a chapter of <i>Routledge Companion to Religion and Film</i>		TBA	有
68	横田陽子	「北里柴三郎と細菌学との出会い」	単著	2025年2月	医学書院、『公衆衛生』、第89巻第2号		pp. 182-185	無
69	高橋涼子	Conflict and cooperation: The participatory process of people with disabilities in disability policy making in Japan	単著	2025年3月	Alter, <i>European Journal of Disability Research</i> , 19-1		pp. 45-58	有
70	山下幸子	障害福祉領域での人材をめぐる動向と課題	単著	2024年12月	『人間福祉学研究』(関西学院大学) 17(1)		pp. 47-60	無
71	山下幸子	障害者権利条約が示す「全ての」障害者が地域社会で生活する権利の実現に向けて——重症心身障害者の地域生活での課題に着目して	単著	2025年3月	『淑徳大学研究紀要(総合福祉学部・コミュニティ政策学部)』59		pp. 75-89	無
72	柴垣登	「岩手県内市町村における特別支援学級の状況と市町村間の差異の要因についての考察」	単著	2025年3月	岩手大学教育学部、『岩手大学教育学部研究年報』、第84巻		pp. 167-187	無
73	柴垣登	戦後肢体不自由教育における健康問題：機関誌『肢体不自由教育』の掲載記事の分析から	単著	2025年3月	岩手大学教育学部、『岩手大学教育学部研究年報』、第84巻		pp. 145-165	無
74	秋葉峻介	死を選ぶことにより実現される「最善」に対する医師の義務	単著	2025年2月	関東医学哲学・倫理学会, 医療と倫理, 14号	秋葉峻介	pp. 27-38	有
75	住田朋久	「北里柴三郎とマスクの時代：肺ペストとインフルエンザを中心に」	単著	2024年12月	医学書院, 公衆衛生, 89巻1号	住田朋久	pp. 75-79	無
76	瀬山紀子	非正規公務員の雇用安定に向けて	共著	2024年9月	労働法学研究会報 75 (17),	古川晶子	pp. 4-7	無
77	瀬山紀子	女性の社会経済的困難と人工妊娠中絶	単著	2024年12月	医学書院, 助産雑誌 78 (6)		pp. 530-533,	無
78	瀬山紀子	働き手の権利と雇う側の責任を考える	単著	2024年11月	労働大学出版センター発行, まなぶ, No. 822		pp. 16-18	無
79	瀬山紀子	交差的形態の差別	単著	2025年3月	国際女性の地位協会, 国際女性性, 38		pp. 58-59	無
80	太田智加子	A New Approach to Support Self-regulated English Learning for Visually Impaired University Students through "Content-	単著	2025年3月	東北大学教育学研究科			無

		focused Accessible E-learning Material” :Based on Student-centered Feedback (博士論文)						
81	丹波博紀	「水俣病関連遺産群」における百間排水口	単著	2024年7月	建築ジャーナル		pp. 14-16	無
82	藤岡毅	障害者自立支援法違反訴訟の意義と今後の展開	単著	2024年11月25日	障害者問題研究 第52巻第3号 2024年		pp184-191	無
83	利光恵子	特集 旧優生保護法裁判・最高裁判決 声を上げた被害者らがつかみ取った完勝判決	単著	2024年10月	現代の理論・社会フォーラム、言論空間、66号		pp. 12-15.	無
84	利光恵子	戦後最大の人権侵害を許さない——優生保護法問題の全面解決を求めて	単著	2024年11月	現代書館、季刊福祉労働、176号		pp. 130-143.	無
85	利光恵子	優生保護法裁判が問いかけるもの	単著	2024年11月	やどかり出版、響き合う街で、111号		pp. 3-11.	無
86	利光恵子	被害者にとって「優生保護法被害」とはなにか——判決で心の傷は癒されたのか	単著	2025年1月	賃社編集室、賃金と社会保障、1865・1866 合併号		pp. 41-47.	無
87	利光恵子	優生保護法問題をめぐって——最高裁完全勝利判決と「補償法」を手にするまでと、今後の課題	単著	2025年2月	やどかり出版、響きあう街で、112号		pp. 26-30.	無
88	鈴木雅子	一九七〇年代の東京都における脳性マヒ者運動の展開 — 「東京青い芝の会」のケア付住宅建設運動を事例に—	単著	2024年12月	現代史料出版、『年報 日本現代史』第29号	「年報日本現代史」編集委員会	pp. 67-100	有
89	孫美幸	第4章 共生にむけた「ゆたかな学び」を支える教員の身振り「観立てる力」を活かした対話的空間の創造へ	単著	2024年5月	一般財団法人教育文化総合研究所「ゆたかな学び」としての学校づくり研究委員会（第二期）報告書 ゆたかな学びを拓くために：「主体的・対話的で深い学び」を問い直す		PP. 46-60	無
90	大久保豪	『三国志』（陳寿、裴松之注）蜀書杜微伝における「聾」の記述 その1	単著	2024年9月	聾啞史会報 80巻		PP. 4-10	無
91	大久保豪	Participation factors in a self-quantification program for family caregivers of community-dwelling older adults with long-term care in Japan	共著	2024年12月	Springer Science and Business Media LLC	Tomoko Wakui, Satoko Fujihara, Yoko Moriyama, Takeshi Nakagawa, Shuichi Obuchi, Shuichi Awata, Ichiro Kai		有
92	Hiroto Shimizu	Infrastructuring Robotics in Healthcare and Rehabilitation	単著	2024年12月	CONVERGING CLINICAL AND ENGINEERING RESEARCH ON NEUROREHABILITATION II, VOLS 1 AND 2		PP. 609-612	有
93	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪【第22回】フィリピン①	単著	2024年4月	心理学ワールド(105)		PP. 2	無
94	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪【第23回】フィリピン②	単著	2024年7月	心理学ワールド(103)		PP. 2	無
95	サトウタツヤ	共食を通じた結婚初期夫婦の関係構築過程—TEM のイメージネーションモデルを用いた一考察	共著	2024年10月	TEA と質的探究	上川多恵子・宮下太陽・安田裕子	PP. 1	有
96	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪【第24回】フィリピン③	単著	2024年10月	心理学ワールド(104)		PP. 2	無
97	サトウタツヤ	教育現場への ICT 導入を促進する意思決定過程の質的研究	単著	2024年12月	IBM Community Japan 2024年ナレッジモジュール論文		PP. 1-6	無

98	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪 [第25回] トルコ①	単著	2025年1月	心理学ワールド(105)		PP. 2	無
99	サトウタツヤ	TEMにおける時期区分の真正性を高めるためのクロスチェック表の使用の提案	共著	2025年3月	人間科学研究 (立命館大学)	福山未智	PP. 57-70	有
100	サトウタツヤ	TEAにおける分岐点分析の提案と描き方——記号論的文化心理学に基づく質的研究法の新展開	共著	2025年3月	質的研究と社会実装	中田友貴, 福山未智, 安田裕子	PP. 72-84	無
101	サトウタツヤ	2024年度の文化心理学ネットワーク、ちょっとだけその他 帰って来た_対人援助学縦横無尽 (2)	単著	2025年3月	対人援助学マガジン		PP. 77-97	無
102	サトウタツヤ	複線径路等至性アプローチを用いた「ナノエスノグラフィ」の提案:異なる文化を理解するための理論的基盤とモデル構築	共著	2025年3月	質的研究と社会実装	上川多恵子	PP. 49-71	有
103	サトウタツヤ	複線径路等至性アプローチの時間概念における方法論的考察	共著	2025年3月	質的研究と社会実装	上川多恵子, 宮下太陽	PP. 1-18	有
104	サトウタツヤ	関係学と TEA(複線径路等至性アプローチ)の邂逅	単著	2025年3月	関係学研究		PP. 50-60	無
105	サトウタツヤ	メタバースの教育利用に対する探索的研究	共著	2025年3月	質的研究と社会実装	工藤愛弓, 上田隼也, 戸簾隼人	PP. 85-97	無
106	サトウタツヤ	ひきこもり青年の関係性の変容プロセス—事例研究における複線径路等至性モデリングと関係学の融合—	共著	2025年3月	関係学研究	廣瀬太介	PP. 5-18	有
107	長瀬修	旧優生保護法最高裁判決:総括所見と優生思想	単著	2024年11月	福祉労働		PP. 162-163	無
108	川端美季	ヒトとモノからみる公衆衛生史(第11回) 入浴と清潔をめぐる近代史(2)——欧米の公衆浴場運動	単著	2024年4月	公衆衛生		429-434	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	川端美季	入浴と清潔をめぐる近代史——養生としての入浴から国民的清潔としての入浴へ	2024年12月	日本医史学会関西支部秋季学術集会	
2	川端美季	Bathing Customs And Purity In Modern Japan	2024年6月	The International Association for the Study of Traditional Asian Medicine (IASTAM) and the Asian Society for the History of Medicine (ASHM) Conference 2024	
3	美馬達哉	「ブレイン (—身体—) コンピューターインターフェースを利用したクローズドループ・システムのリハビリテーション応用」シンポジウム「ロボット, BCI, 非侵襲的脳刺激はリハの三種の神器になるのか?!」	2024年8月	全国リハ学校協会教育研究大会	
4	美馬達哉	「経頭蓋的磁気刺激法 (TMS) の原理と展望」	2024年9月	講演会	
5	美馬達哉	「経頭蓋的静磁場刺激 (tSMS) が脳機能に及ぼす影響」シンポジウム:高次感覚情報処理と臨床神経生理	2024年10月	第54回臨床神経生理学会学術大会	
6	美馬達哉	「医療社会学からみたピアと医療専門家の関わり方」ワークショップ「患者・市民参画 (PPI) とは何か——その現状と課題——」	2024年11月	日本医学哲学倫理学会大会	
7	美馬達哉	COVID-19 Experiences of Ventilator Users	2024年11月	臺灣社會學會年會	

8	美馬達哉	「傷つく身体から拡張する身体へーポストヒューマン時代におけるー」	2025年2月	「ポストヒューマンにおける「人間」の基礎研究」研究会	
9	美馬達哉	Efficacy of tSMS in improving upper limb Function in Subacute Stroke Patients	2025年2月	6th International Brain Stimulation Conference	
10	美馬達哉	The Impact of the COVID-19 Pandemic on the Lives of Ventilator Users: Ethical Considerations	2025年3月	Pandemic ELSI International Conference	
11	伊東香純	低開発地域の当事者運動——ガーナの精神障害に関するトランスナショナルな運動に注目して	2024年5月	第50回日本保健医療学会大会	
12	伊東香純	地方と都市の社会運動——ザンビアにおける精神障害者組織に注目して	2024年9月	障害学会第21回大会	
13	伊東香純	Positioning the Person Concerned: Focusing on Movements of People with Psychosocial Disabilities in Africa	2024年9月	Leeds Disability Studies Conference	
14	伊東香純	障害者運動における精神障害者の運動	2024年10月	障害学国際セミナー2024	
15	伊東香純	福祉国家における脆弱なパーソン(人)であることと社会的排除	2024年11月	第36回日本生命倫理学会年次大会	講演者:Angharad Beckett、コーディネーター:大谷いづみ
16	伊東香純	質的データのアーカイブの担い手としての障害者運動—マンチェスター障害者連合を事例として	2024年11月	第97回日本社会学会大会	
17	後藤基行	"Issues in the Preservation and Accessibility of Healthcare Archives	2025年2月	"Eugenics and Justice in East Asia: Past and Present"	
18	後藤基行	"The Actual Implementation of Forced Sterilization Under the Eugenic Protection Law in Japan"	2025年2月	"Eugenics and Justice in East Asia: Past and Present"	
19	後藤基行	精神医療史から精神科病院の長期入院問題を考える	2024年12月	全日本自治団体労働組合地域保健・精神保健セミナー	
20	後藤基行	公共文書としてのヘルスケア・アーカイブズのデジタル化と生命倫理	2024年11月	第35回日本生命倫理学会年次大会大会企画シンポジウム	
21	後藤基行	多様なステークホルダーとの協働による新しい資料読解の試みとアーカイブズの公共化	2024年11月	第35回日本生命倫理学会年次大会	
22	後藤基行	"The Difficulty of Psychiatric Deinstitutionalization in Japan — Historical Analysis of the Beds Supply—	2024年10月	"2024 East Asia Disability Studies Forum in Taiwan"	
23	後藤基行	資料の中の強制不妊手術—医療機関作成資料と公文書—	2024年7月	全国精神保健福祉連絡協議会令和6年度総会	
24	松原洋子	「〈不良な子孫〉の出生防止と人権侵害-優生保護法の歴史から」	2024年8月	ジェンダー法政策研究所第4回公開シンポジウム「産む権利/産まない権利 リプロダクティブ・ライツの現在(いま)」	
25	大谷いづみ	Supported Decision-Making Supported decision-making and accessibility: on Euthanasia / Death with Dignity (Session3, Supported Decision-Making)	2024年10月	TaiPei, 2024 East Asia Disability Studies Forum (EDSF)	
26	大谷いづみ	生存学(障害病異)の観点からの身体圏研究	2024年11月	BKC 開設30周年記念企画・身体圏研究連続シンポジウム第3回「多重環境化社会を生きる 私・身体・心」	
27	大谷いづみ	Prof. Angharad E. Beckett, Vulnerable Personhood and Social Exclusion in the Welfare State (福祉国家における脆弱なパーソン(人)であることと社会的排除)	2024年11月	第36回日本生命倫理学会年次大会	共同、オーガナイズ・司会
28	宮脇正晴	商標法・不正競争防止法における混同概念(総論)	2024年5月	日本工業所有権法学会研究会	

29	宮脇正晴	周知なオフロード車の名称を含む商標について、指定商品を「オフロード車の改造に用いる部品及び附属品に関する情報雑誌」とする商標登録出願の可否（知財高判令6・8・5令和6(行ケ)10007 [Jimmy Fan]）	2024年10月	知的財産判例研究会	
30	宮脇正晴	図書館におけるゲームの利用と著作権	2024年11月	図書館総合展	
31	宮脇正晴	著作権法112条2項の廃棄等請求	2024年11月	第98回東京大学著作権法等研究会	
32	Sayaka Ogawa	Session 1: Transition and Transformation: The Quest for Well-being in a Dynamic Environment	2024年12月	The GASP-EES International Symposium “Crisis of Wellbeing and Wellbeing in Crisis Across Borders”（東北大学環境・地球科学国際共同大学院プログラム）, 仙台・東北大学	
33	小川さやか	「サイバー空間のフィールドワーク」	2024年8月	2024年度日本建築学会大会 建築計画部門—パネルディスカッション フィールドワークの新しい方法—「みる」と「知る」の再接続”シンポジウム、日本建築学会大会 建築計画部門、オンライン	
34	Shiomi Yasuhiro	The Effects of Fare on Transport Equity: New Evidence from Long-Distance Travel in Vietnam	2025年1月	TRB 104th annual meeting	Minh Ngoc An, Ngoc Pham, Hung Khuat, Nishiuchi Hiroaki, Haq Muhammad
35	Yukiko Himeno	“Am I locked-in?” Illness trajectories and the experience of locked-in syndrome in Japan and Europe	2024年4月	Neuroethics 2024 INS Annual Meeting, Baltimore	Lina Masana, Yumiko Kawaguchi, Tatsuya Mima, Fernando Vidal
36	姫野友紀子	Perceptions of the relationship described in the narratives by persons with locked-in syndrome	2024年5月	Participation (Un)plugged: Exploring Dignity and Disability through Human-Robot Interaction	美馬達哉
37	姫野友紀子	スペイン、タラゴナから	2024年9月	2024年臨床哲学対話 in 和歌山 ALSの臨床現場との哲学対話（4）	
38	Yukiko Himeno	Perceptions of the relationship described in the narratives by persons with locked-in syndrome	2024年10月	Interpersonal Relationships Experienced by Persons with Locked-in Syndrome	
39	安田裕子	TEAのいろは—TEMの基礎を学ぼう	2024年5月	TEAと質的探究学会第3回大会(武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス (オンライン))	
40	安田裕子	オンラインコメントセッション	2024年5月	TEAと質的探究学会第3回大会(武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス (オンライン))	
41	安田裕子	脳卒中後遺症者の地域における療養生活の変容とその複雑性—TEMからみえる「転換」	2024年5月	TEAと質的探究学会第3回大会(武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス)	横山直子
42	安田裕子	自己の世界におけるTEMとの対話的関係の考察—対話的自己論に基づいて	2024年5月	TEAと質的探究学会第3回大会(武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス)	小山多三代・土元哲平
43	安田裕子	複線径路・等至性アプローチの実践的活用—TEA/TEMの応用ケーススタディ	2024年9月	オンライン開催、一般社団法人日本社会福祉マネジメント学会 (JASM) 教育セミナー	
44	安田裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —基礎編	2024年9月	日本心理学会第88回大会(熊本城ホール)	サトウタツヤ
45	安田裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —応用編	2024年9月	日本心理学会第88回大会(熊本城ホール)	サトウタツヤ

46	安田裕子	複線径路等至性アプローチ における分岐点の捉え方— 対人援助に関わる研究を例 とした考察	2024年10月	日本質的心理学会第 21回大会(成城大学)	上川多恵子・吉田さと み・横山直子・林 田一子
47	桜井啓太	行政区単位の貧困・低所得制度の捕捉率推計—沖縄地 域を例に—	2025年1月	貧困研究会 第17回研究大 会	
48	桜井政成	サービスマーケティング型授業での再帰性実践の可能性 —社会的想像	2024年6月	福祉社会学会第22回研究大 会	
49	桜井政成	質的研究における妥当性向上の技法—認識論的議論 と日本の社会学論文での実践状況	2024年11月	第97回 日本社会学会大会	
50	村本邦子	臨床心理学と人道主義	2024年9月	第43回心理臨床学会自主シ ンポジウム	
51	村本邦子	新型コロナワクチン被害をめぐって—社会に見えに くい隠蔽された被害への心理支援と課題—	2024年10月	第43回心理臨床学会自主シ ンポジウム	
52	村本邦子	土地に根差したコミュニティ心理学について考える— —コミュニティ心理学を脱殖民化する	2024年10月	日本コミュニティ心理学会 第27 回大会	
53	村本邦子	島に根を張るボリクア・ヒップホップ—ショートビデ オ・エスノグラフィーの試み—島に根を張るボリク ア・ヒップホップ	2024年10月	日本質的心理学会第21回大 会	
54	鎮目真人	Old Age Income Mixes in East Asia: Compressed Modernity with Institutionalized Tradition	2024年6月	The 20th East Asian Social Policy Network & the 30th Foundation for International Studies of Social Security Joint International Conference (Kyoto)	
55	鎮目真人	Pension Reform in Japan: Balancing Sustainability and Sufficiency	2024年6月	The 18th Pension Experts Meeting In the Asia-Pacific Region (Seoul)	
56	鎮目真人	The Strategy for Reforming Pension systems in Japan: Focus on the 2025 Reform	2024年9月	第18回社会保障国際論壇 (広州)	
57	鎮目真人	Old-Age Income Mixes in East Asia: Determinants of Public Pension Development	2024年10月	社会政策学会第149回全国 大会(大分大 学)	
58	鎮目真人	年金制度における不人気改 革をめぐるポリティクスと 年金改革の課題—2004年年金改革から2025年年金 改革へ	2024年11月	日本医療福祉政策学会2024 年度(第8回)研究大会(佛 教大学)	
59	鎮目真人	Japanese Pension Reform in 2025 and Beyond: From 2004 to 2025 reform	2024年12月	2024 Korean Social Security Association Conference: Social Policies for an Aging Society (Korea University)	
60	Shigenori Mochizuki	Hagoromo XR: Co-creating an Extended Reality Arts Performance to Support Inclusion	2024年6月	International Symposium on Electronic Art (ISEA) 2024	Jonathan Duckworth, James Hullick, Ross Eldridge
61	望月茂徳	アレルギー治療法学習のための子供向けインタラク ティブコンテンツの制作	2024年9月	エンタテインメントコンピ ューティングシンポジウム 2024	門前 美樹, 大島 登志 一
62	Shigenori Mochizuki	XR Avatar Prototype for Art Performance Supporting the Inclusion of Neurodiverse Artists	2024年12月	SIGGRAPH Asia 2024	Jonathan Duckworth, Ross Eldridge, James Hullick
63	Shigenori	Fostering Creativity and Inclusion through Extended	2024年12月	SIGGRAPH Asia 2024	Jonathan Duckworth, Li Ping Thong, John

	Mochizuki	Reality (XR): Bridging Digital Divides in Diverse Communities			Power, Quynh Nhu Bui
64	望月茂徳	アレルギー疾患と舌下免疫療法における子どもの理解を支援するインタラクティブメディアの制作	2025年3月	INTERACTION 2025 第29回 一般 社団法人情報処理学会シン ポジ ウム	門前美樹, 大島登志一
65	望月茂徳	障害の有無を超えた共生体験を促す複数のインタフェースを持つ体験型インスタレーションの制作	2025年3月	INTERACTION 2025 第29回 一般 社団法人情報処理学会シン ポジ ウム	中濱佑太, 大島登志一
66	保明綾	【招待】 Negotiating for Asia's Population: Japan in the Transnational Network of Family Planning, Development Aids and Global Health	2024年4月	北大医学人文讲堂シリーズ 133、北京大学医学人文学科、 北京市	
67	保明綾	【招待】 Science for Governing Japan's Population	2024年4月	'Population Sciences and Discourses in Modern Japan' Workshop, 香港大学 東アジア研究学部、オンライ ン	
68	保明綾	【招待】 Making of the 'Feeble-minded': Gender, Family and Subjectivity around Involuntary Sterilization in Japan	2024年5月	Nissan Institute of Japanese Studies, University of Oxford, Oxford, UK	
69	保明綾	Media technology and Japan's cooperation in family planning with China in the 1980s	2024年5月	Media and Epidemics: Technologies of Science Communication and Public Health, 20th-21st Centuries Conference, University of Bucharest, Bucharest, Romania	
70	保明綾	Structures of Science and Data-Sharing in Post-War Asia: Japan and the 1957-58 International Geophysical Year	2024年6月	Joint East Asian Studies Conference, University of Central Lancashire, Preston, UK	
71	保明綾	Politics surrounding the China Japan Friendship Hospital	2024年7月	British Society for History of Science Annual Conference, University of Aberystwyth, Aberystwyth, UK	
72	保明綾	【招待】 Fertility Decline, Demographic Changes and the Anthropocene: A Case of Japan after World War II	2024年7月	'How Do We Think About Population in the Anthropocene?' Workshop, Jesus College, University of Cambridge, Cambridge, UK	
73	保明綾	【招待】 Failures in the Science of Governing Japan's Population	2024年8月	University of Sydney Department of Japanese Studies, Sydney, Australia	
74	保明綾	【招待】 Science for Governing Japan's Population	2024年9月	中央研究院歴史語言研究所、 台北市	
75	保明綾	【招待】 Eugenic Sterilization and Historical Sources in post-WWII Japan	2024年9月	国立成功大学医学系人文暨 社会医学部、台湾台南市	
76	保明綾	【招待】 Everyday Practices in the Science of Governing Japan's Population	2024年10月	Columbia University Department of East Asian Languages and Cultures, New York, USA	
77	保明綾	【招待】 『優生保護法のグローバル史』(人文書院) 合評会	2025年2月	早稲田大学、東京	
78	保明綾	【招待】 Commentary on Drs. Hiro Fujimoto and Lu Chen	2025年1月	New Directions in the History of East Asian Science Workshop, Needham Research Institute, Cambridge, UK	

79	保明綾	【招待】1970年代における日中関係と女性科学者の交流	2025年1月	2024年度末ワークショップ「日本における女性科学者の誕生」、叡啓大学、広島市	
80	村上潔	【招待】フェミニストアークाइビング実践におけるオーラルヒストリーの取り組み——イギリスの自律的地域アーカイヴの事例から	2025年2月	第7回オーラルヒストリー・アーカイブ・プロジェクト研究会、大阪大学豊中キャンパス、豊中市	
81	奥山佳子	Teaching Japanese Religions: Innovative Methods for Engaging Learning	2024年4月23日	Association for Asian Studies Annual Conference	Roundtable discussants include: Michaela Moss (Stanford University), Mark MacWilliams (St. Lawrence University)
82	奥山佳子	【招待】Masterclass Presentation: Conducting Research on Disability in Japan	2025年4月23日	Monash University, Melbourne, Australia	
83	奥山佳子	Panel Discussion: Representation of Neurodiversity (Autism Spectrum Disorder) in Japanese Graphic Memoirs	2025年4月24日	Monash University, Melbourne, Australia	
84	奥山佳子	【招待】A Journey from a Young Caregiver Experience to a Tōjisha Manga Translation Project	2024年11月26日	日本グラフィック・メディアシン協会	
85	ホワニシャン・アストギク	【招待】旧優生保護法下の子宮摘出に関する発表	2025年4月	シンポジウム「Disability in Japan」、豪州、メルボルン	
86	ホワニシャン・アストギク	“Immigrant Vessels as Floating Clinics? Trachoma and Japanese Immigrants”	2024年7月	AAS-in-Asia、インドネシア、ジョクジャカルタ、	
87	ホワニシャン・アストギク	“Towards a History of Women with Disabilities in Japan”	2024年7月	ASCJ, 東京	
88	横田陽子	地方衛生研究所へのウイルス検査導入経緯	2024年5月	日本科学史学会第71回年会	
89	高橋涼子	ケアの脱家族化をめざす：「家族からの排除／家族への排除」を越えて（テーマセッションコーディネーター）	2024年11月	第97回日本社会学会大会	
90	三島亜紀子	【招待】専門職化の歴史から考えるソーシャルワークの現在地：ソーシャルワークのグローバル定義に依拠して	2024年9月	日本福祉図書館学会第26回全国大会、同志社大学、京都市	
91	三島亜紀子	【招待】ソーシャルワーカーのセルフケア試論：グローバル定義・倫理綱領との関連から	2025年3月	日本ソーシャルワーク学会2024年度研究セミナー、明治学院大学、東京都	
92	山下幸子	地域で暮らし続けるための社会資源の整備と拡充の必要ー重症心身障害者の親へのインタビュー調査からー	2024年10月	日本社会福祉学会 第72回秋季大会、日本福祉大学、東海市	
93	柴垣登	戦後肢体不自由教育における健康問題に関する予備的研究	2024年9月	日本特殊教育学会、第62回研究大会、福岡国際会議場、福岡市	
94	秋葉峻介	「ケアの倫理」は自ら死にゆくことに手を貸すか？	2024年9月	第29回日本臨床死生学会年次大会、埼玉会館、さいたま市	
95	秋葉峻介	公募WS「患者・市民参画（PPI）とは何か——その現状と課題」	2024年11月	第43回日本医学哲学・倫理学会年次大会、滋賀医科大学、大津市	杉原正子、美馬達哉、渡部沙織
96	秋葉峻介	誰が／誰と「物語」を紡ぐのか——「物語的自己同一性」の諸議論と「人生の物語り」	2024年11月	第43回日本医学哲学・倫理学会年次大会、滋賀医科大学、大津市	
97	秋葉峻介	意思決定支援の議論はどこまで小児（新生児）領域に適用／応用可能なのか？（公募シンポジウム：小児の	2024年11月	第36回日本生命倫理学会年次大会、立命館大学、茨木市	シンポジウム登壇者として笹月桃子、加部一

		生命維持治療をめぐる「話し合い」を再考する)			彦、櫻井浩子
98	秋葉峻介	公募WS「緩和医療と「安楽死」のはざままで」	2024年11月	第36回日本生命倫理学会年次大会、立命館大学、茨木市	杉原正子、宿野部武志、亀山直史、川口有美子
99	秋葉峻介	【招待】患者にとって望ましい共同意思決定について——「人生の物語り」の限界・課題を展望しつつ	2025年2月	生存科学研究所自主研究会(若手研究者)「透析導入の共同意思決定における患者の経験」(研究代表者:宇野澤千尋)、オンライン開催	
100	秋葉峻介	【招待】関係(性)と自己——臨床における共同意思決定・おひとりさま・ケアの/と社会	2025年2月	第29回協同主義研究会、法政大学、千代田区	
101	住田朋久	マスクと細菌学:ルイ・パストゥール、ロベルト・コッホ、北里柴三郎ほか	2024年5月	日本科学史学会年會、東京大学、東京都	
102	瀬山紀子	「公務職場における仕事の序列化とジェンダー——「専門職」として働く公務非正規女性の経験調査から」	2024年6月	2024年度日本女性学会大会於:武蔵大学	
103	瀬山紀子	「障害学の展開に学び、障害学を広げていくために」	2024年9月	障害学会第21回大会於:東京理科大学	
104	瀬山紀子	「障害を理由とした不妊手術等を受けた被害者へのインタビュー調査から見えてきたこと」	2024年9月	障害学会第21回大会於:東京理科大学	河口尚子、坂井めぐみ、利光恵子
105	瀬山紀子	「アーカイブ活用を通じた「対話」の可能性—障害のある女性の「語り」を用いて」	2024年11月	第97回日本社会学会於:京都産業大学	土屋葉、時岡新、後藤悠里、河口尚子
106	瀬山紀子	【招待講演】働くことと、生きること、お金をめぐる問い——障害女性たちの言葉を辿りながら	2024年12月	日本ベーシックインカム学会第7回年次大会 於:駒沢大学	
107	西川純司	【招待】結核をめぐる医療実践の歴史——科学と非科学の境界をめぐる	2024年7月	京都大学人文科学研究所「モノ・知識・環境」共同研究班、京都大学、京都市	
108	西川純司	自著を語る〜MY FIRST BOOK〜(2)『窓の環境史——近代日本の公衆衛生からみる住まいと自然のポリテクス』	2024年8月	第75回関西社会学会大会、大和大学、大阪市	
109	青木慎太郎	同行援護従業者養成研修カリキュラム改定の背景と課題	2024年8月	第27回日本福祉のまちづくり学会全国大会、北海道科学大学、札幌市	
110	青木慎太郎	「当事者を支える人を、当事者が育てる」の現状——各都道府県の同行援護従業者養成研修指定要綱における当事者の位置づけを手掛かりとして——	2024年9月	障害学会第21回大会、東京理科大学葛飾キャンパス、東京都	安田真之
111	青木慎太郎	同行援護従業者養成研修において当事者に期待される役割	2024年11月	第70回土木計画学研究発表会・秋大会(企画提案型)、岡山大学津島キャンパス、岡山市	
112	丹波博紀	科学技術社会における仏教思想の潜勢力:水俣病事件を事例として	2024年6月	第3回仏教×科学相関研究会(於大正大学)	
113	丹波博紀	水俣病を(かくす)ことと(ひらく)こと——石牟礼道子『春の城』からの遡航的探究	2024年11月	日本思想史学会2024年度大会(於筑波大学)	
114	萩原浩史	精神障害者地域生活支援センターが再編に至るまでの経緯～精神障害者の地域生活支援の在り方に関する検討会の分析～	2024年9月	第23回日本精神保健福祉士学会学術集会、アクリエひめじ、兵庫県姫路市	
115	野口友康	【招待】フル・インクルーシブ教育の実現にむけて	2024年11月	特定非営利活動法人ラルゲットラルゲット創立10周年企画「フル・インクルーシブ教育と『当事者研究』の未来」大阪	
116	野口友康	【招待】Developing and Implementing Inclusive Education - A Case Study of Ozora Elementary School In Japan	2024年12月	Nissan Institute Graduate Seminar in Japanese Studies Oxford UK	
117	野口友康	【招待】Inclusive Education in Japan	2025年3月	University of Exeter Seminar Exeter, UK	
118	有田啓子	性的マイノリティの出産・子育てと「精子提供」——インタビュー調査より	2024年9月	日本解放社会学会 第40回大会、中京大学、名古屋市	風間孝

119	利光恵子	【招待】優生思想とわたしたちの社会——優生保護法問題から考える	2024年10月	ハンセン病市民学会第5回シンポジウム	
120	高阪梯雄	重度訪問介護成立に際して働いた力学—公共的相互性の下で起こったこと—	2024年6月29日	第22回福祉社会学会 津田塾大学	
121	高阪梯雄	なぜ重度訪問介護の対象拡大は実現したのか—当事者への聞き取りと公共的相互性—	2024年7月28日	第23回日本社会福祉学会東北部会研究大会 東北文教大学	
122	高阪梯雄	重度訪問介護の対象拡大実現の背景—関係者の証言および理論的フレームからの考察—	2024年9月15日	第21回 障害学会 東京理科大学	
123	玉井隆	日常を取り戻す—ナイジェリアにおける警察の暴力とトラウマ—	2024年11月	第264回アフリカ地域研究会	
124	玉井隆	治安機関による市民への暴力—ナイジェリア警察の歴史の変遷からの検討—	2024年5月	日本アフリカ学会 第61回学術大会 大阪	
125	大久保豪	独居認知症高齢者を支える介護：介護形態別のタスク比較による在宅生活支援継続の検討	2024年6月	第66回日本老年社会学会大会	涌井智子, 栗田圭一, 藤原聡子, 森山葉子, 中川威, 甲斐一郎
126	大久保豪	介護施設での介護助手導入による施設経営への効果：全国調査データを用いた傾向スコアマッチングによる検討	2024年6月	第66回日本老年社会学会大会	村山洋史, 東憲太郎, 藤原佳典
127	大久保豪	第8次医療計画のロジックモデル活用実態と効果【第1報】ロジックモデルの活用状況	2024年10月	第83回日本公衆衛生学会総会	吉田真季, 松本佳子, 大井久美子, 埴岡健一
128	Suguru Okubo	Examining the Feasibility and Benefits of Self-Quantification for Family Caregivers: A Mixed-Method Approach	2024年11月	Gerontological Society of America 2024 Annual Scientific Meeting	Tomoko Wakui, Satoko Fujihara, Yoko Moriyama, Takeshi Nakagawa, Shuichi Obuchi, Shuichi Awata, Ichiro Kai
129	大久保豪	精神科訪問看護師による精神疾患患者の家族支援の実践と課題（その1）支援の実践状況と重要性の認識の違い	2024年12月	第44回日本看護科学学会学術集会	鈴木 美央, 田上 美千佳, 寺岡 征太郎
130	大久保豪	精神科訪問看護師による精神疾患患者の家族支援の実践と課題（その2）訪問看護師の関心や経験との関連	2024年12月	第44回日本看護科学学会学術集会	田上 美千佳, 鈴木 美央, 寺岡 征太郎
131	Hiroto Shimizu	Personal Health Records (PHRs) using AI & robotics: Towards understanding its social and normative dimensions	2024年5月	International Symposium Participation(Un)plugged: Exploring Dignity and Disability through Human-Robot Interaction	
132	志水洋人	個人を取り巻く状況とうつ状態との間の「相応性」をめぐる語り——日英米のうつ病手記の分析から	2024年5月	第50回日本保健医療社会学会大会	
133	志水洋人	ポスト博論での研究の進め方を考える——英語（圏）との関わりを例として（ラウンドテーブルディスカッション7「ポスト博論での研究の進め方を考える——精神・発達障害の社会学を例に」美馬達哉立命館大学教授企画）	2024年5月	第50回日本保健医療社会学会大会	
134	志水洋人	社会学者としてAIロボティクスの「ELSIをする」ということ——ムーンショット型研究開発目標3のプロジェクトを事例に	2024年9月	第13回科学社会学会年次大会	
135	Hiroto Shimizu	Infrastructuring robotics in healthcare and rehabilitation	2024年11月	The 6th edition of the International Conference on NeuroRehabilitation (ICNR 2024)	
136	志水洋人	不可視化されるAIロボティクス——ムーンショット型研究開発目標3のプロジェクトを事例に	2024年11月	科学技術社会論学会 第23回年次研究大会	
137	Hiroto Shimizu	AI and Robotics as Infrastructure in Japanese Health and Wellbeing: A Sociological Analysis of Emerging Technologies	2025年2月	International Symposium on Community-centric Systems and Robots 2025 (CcSR 2025)	
138	Hiroto Shimizu	Robot AI Ethics	2025年2月	International Symposium on Community-centric Systems and Robots 2025 (CcSR 2025)	
139	志水洋人	討論コメント：可視化の探究：「インフラ」概念を手掛かりに	2025年3月	日本保健医療社会学会関東定例研究会（第2回）「セク	

				シュアル・マイノリティをめぐる医療]	
140	志水洋人	AI ロボットがインフラになる未来? : 倫理的・法的・社会的課題	2025年3月	ムーンショット目標 3 公開シンポジウム 2025~最新の研究成果・AI ロボットを展示~	
141	松岡弘之	「愛生保育所」運営記録にみる「未感染児童」の処遇	2024年6月	第97回日本ハンセン病学会総会・学術大会	
142	松岡弘之	加藤清正と本妙寺部落—(神格化)と近代日本のハンセン病	2024年12月	岡山大学文学部2024年度プロジェクト研究シンポジウム「神格化をめぐる表象と文化」	
143	Tatsuya SATO	Theoretical analysis of the bifurcation point in the TEA: Where/when the dialogical self occurs	2024年6月	12th Dialogical Self Concerence	Saki Nakano
144	サトウタツヤ	性格を時間と関係性によって捉える	2024年10月	日本質的心理学学会第21回大会	齋藤 優希
145	サトウタツヤ	出産を経験した女性のキャリア	2024年10月	日本質的心理学学会第21回大会	中田友貴・安田裕子・福山未智
146	サトウタツヤ	ビデオゲームに親しむ視覚障害者	2024年10月	日本質的心理学学会第21回大会	長谷川 綾音
147	サトウタツヤ	衣服としてのコスプレコスチューム	2024年10月	日本質的心理学学会第21回大会	福山未智
148	サトウタツヤ	日常の場が癒しの場になること	2024年10月	日本質的心理学学会第21回大会	土元哲平・伊東美智子・高松 邦彦・松浦由典・中坪史典・澁谷雪子
149	サトウタツヤ	バーチャル YouTuber の生配信においてオープニング時に投稿されるチャットの内容と意図, 変遷について	2025年2月	第4回計算社会科学学会大会	中林 開・中田友貴・吉田史明

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	大谷いづみ 『Maelstrom』上映会&トークセッション	オンライン	2025年2月	40名	人間科学研究所
2	‘Eugenics and Justice in East Asia: Past and Present’	朱雀キャンパス	2025年2月	30名	グレート・ブリテン・笹川財団、立命館大学
3	ワークショップ「東日本大震災から見えてきたこと (12)」	京都大学(会場校) オンライン開催	2024年10月	40名程度	日本倫理学会のプログラムとして実施責任者を務める

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	松原洋子	優生学と人間社会—優生保護法問題を中心に	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 令和6年度総会記念講演と話し合い	2024年7月
2	松原洋子	(不良な子孫)の出生防止と人権侵害—優生保護法の歴史から	法務局・地方法務局人権擁護課長優生問題関係研修会	2024年10月
3	松原洋子	強制不妊手術という人権問題—優生保護法の歴史から学ぶ	第469回国際人権規約連続学習会	2024年10月
4	松原洋子	生命倫理がつなぐ連帯—対話の継続	第36回日本生命倫理学会年次大会	2024年11月
5	富永京子	Housing, Working, and Networking with Neighborhoods: Constructing Autonomy and	Youth and Student Movements in East and Southeast Asia: From Sunflower/Umbrella Movements to #MilkTeaAlliance and Beyond	2024年4月

		Reconstructing Community by Ex-Activists Youth		
6	小川さやか	「《多思彩々》現代にこそ必要な「老いの力」」	信濃毎日新聞 4面,	2024年4月
7	小川さやか	「山納洋×小川さやか「アフリカ系商人たちのコモンズ」」	がくげいらボトークイベント, 学芸出版社, オンライン	2024年4月
8	小川さやか	「ひらいめぐみ×小川さやか「誰がために職は転がる——働き方の人類学」」	トークイベント, オンライン/UNITÉ (三鷹市)	2024年4月
9	小川さやか	「タンザニアの商人から考えるこれからの経済」	「ローカルスタンダードをデザインする 環境人文学 I」, 明治大学駿河台キャンパス	2024年4月
10	小川さやか	「タンザニア人に学ぶ不確実な未来を生き抜く知恵」	私立桐光学園中学高等学校講演会, 私立桐光学園中学高等学校	2024年4月
11	小川さやか	「グレーバー研究会」	宇沢国際学館, 瑞泉寺	2024年4月
12	小川さやか	「石灘早紀×小川さやか「インフォーマルな世界を歩くこと」」	『運び屋として生きる』(白水社) 刊行記念トークイベント, 株式会社博報堂ケトル ストープカンパニー, オンライン	2024年6月
13	小川さやか	「アステイオン vol. 100 トーク「言論のアリーナ」としての試み」	公益財団法人サントリー文化財団	2024年6月
14	小川さやか	「エスノグラフィー・プロトタイプング」	2024年度西園寺塾, 立命館東京キャンパス	2024年6月
15	小川さやか	「《多思彩々》日常への回復へ寄りそって」	信濃毎日新聞 4面,	2024年7月
16	小川さやか	「哲学界のロックスター」 マルクス・ガブリエルの日本向け書き下ろし新刊『倫理資本主義の時代』刊行記念講演「なぜいま、倫理資本主義なのか」	講演会, ディスカッションパネリスト, 株式会社早川書房, インデックスグループ, 東京大学本郷地区キャンパス大講堂 (安田講堂)	2024年8月
17	小川さやか	「他者とともに世界を想像/創造する」文化人類学のゆたかさ、おもしろさをめぐって」	学部研究会, 株式会社ナガセ (東進ハイスクールオンライン)	2024年8月
18	小川さやか	「『目的外』のインフォーマリティー——アナーキーな自治のために/小川さやか+松本卓也」	『現代思想』, 2024年11月号第52巻17号, 青土社, pp. 43-54	2024年10月
19	小川さやか	「生き方がしの道しるべー佐藤優×小川さやか「異文化から学ぶストレス回避術」」	FLIT タブロイド判/WEB版, 132号, 株式会社リョウマ	2024年11月
20	小川さやか	「タンザニアの若者 たちが教えるこの世界に確かにある「異なる生き方」」	大学学部研究会講義ダイジェスト, 64-67面, 東進本部	2024年12月
21	小川さやか	「エスノグラフィー・プロトタイプング」 人事院ランチタイム勉強会	人事院ランチタイム勉強会運営事務局, オンライン	2024年12月
22	小川さやか	「エスノグラフィー・プロトタイプング」 りそな銀行「真学塾」	株式会社セルム, オンライン	2024年12月
23	小川さやか	「文化人類学の方法とビジネスとの新しいかたち」	会員制のセミナー「表現者塾」, 月間『表現者クライテリア』啓文社書房 AP 西新宿会議室	2025年1月
24	小川さやか	「Living for today (その日その日を生きて)」	佐久総合病院文化講演会, 佐久総合病院, オンライン	2025年2月
25	小川さやか	「《多思彩々》茶の間から変える民主主義」	信濃毎日新聞, 10面	2025年1月
26	小川さやか	「文化人類学とビジネスの可能性 (エスノグラフィー・プロトタイプング)」	企業研究/リベラルアーツ (文化人類学), 株式会社セルム, オンライン	2025年2月
27	小川さやか	「デジタルと教育の庭」	京都芸術大学 Podcast 番組	2025年3月
28	安田裕子	TEA 講習会一初級編	The 6th Transnational Meeting on TEA (第6回 TEA 国際集会) (立命館大学大阪いばらきキャンパス)	2024年10月
29	安田裕子	高齢者の理解と心理的支援	令和6年度 大阪市介護相談研修 (後期・基礎講座), 大阪市立社会福祉センター	2024年10月
30	安田裕子	コース②: TEA を用いたインタビューデータの分析	社会言語科学会講習会 2025 春: 特徴ある言語データの分析手法を体験する, 早稲田大学本庄セミナーハウス	2025年3月
31	安田裕子	複線径路等至性アプローチ (TEA) に関する概説と研究指導	日本福祉大学質的研究会研修会, 大阪経済大A館 (70周年記念館 フレアホール)	2025年3月

32	Shigenori Mochizuki	Hagoromo XR	QUT Creative Industries Precinct, The Block, Brisbane, Australia	2024年6月
33	望月茂徳	生きのびるための歩行 walkingpractice™ /OIC 避難編	茨木市市民総合センター (クリエイトセンター)、立命館大学	2024年12月～ 2025年3月
34	村上潔	【招待 (ゲスト講義)】 "Zine Culture and Locality/Regionality: The Significance of Practices Derived from That Relationship"	東京外国語大学大学院総合国際学研究所 2024 年度春学期《学術英語演習 1》(担当教員: 中井杏奈) 第 10 回, オンライン	2024年6月12日
35	村上潔	【新聞記事】「女性間の分断に強い抵抗」(《耕論》ウーマンリブの伝言 /聞き手: 田中聡子)	『朝日新聞』, 2024年11月6日東京朝刊, 13 [オピニオン] 面 (デジタル版掲載: https://www.asahi.com/articles/ASSB07V9BSB0UPQJ005M.html)	2024年11月6日 (デジタル版掲載: 2024年11月5日)
36	奥山佳子	Kami and Spirituality in Japan	AJET CONNECT Magazine Japan#134	2025年3月9日
37	奥山佳子	Geeking Out Book, "Japanese Creation Myths" and Glossary	National Geographic	2024年11月-2025年現在
38	山下幸子	障害学会第21回大会、大会校企画シンポジウム「障害学研究 20号『障害学の展開』合評会」への登壇	障害学会第21回大会	2024年9月14日
39	瀬山紀子	特定非営利活動法人 (認定 NPO 法人) 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク『分野別ガイドライン 多様性配慮』(発行: 2025年3月) 作成	https://jvoad.jp/wp-content/uploads/2025/04/14393636f4fc8597f627834789367046.pdf	2024年6月～2025年3月 (ガイドライン作成 WG への参加)
40	瀬山紀子	朝日新聞連載「障害×女性 絡み合う困難」	朝日新聞 2025年3月7日～12日 https://www.asahi.com/remsai/list.html?id=2991	2025年3月
41	西川純司	結核の時代と療養する身体 1: 「口を開くな窓開け」——専門家たちの警告	『公衆衛生』 88 (6) : 632-635	2024年6月
42	西川純司	結核の時代と療養する身体 2: パンデミック下で生きる療養者の知恵——新鮮な空気を求めて	『公衆衛生』 88 (7) : 732-734	2024年7月
43	西川純司	結核の時代と療養する身体 3: 病者と看護人の抗争史——すれ違う親と子	『公衆衛生』 88 (8) : 852-854	2024年8月
44	西川純司	書評に依って (『窓の環境史——近代日本の公衆衛生からみる住まいと自然のポリティクス』)	『ソシオロジ』 211: 113-116	2024年11月
45	丹波博紀	鶴見和子の最初の位置、内発的発展論が発生してくる場へ 書評『鶴見和子と水俣』	『図書新聞』	2024年8月3日 3650号4面
46	丹波博紀	祈りと学びの水俣巡礼 第1回 水俣と巡礼	『季刊 水俣支援 東京ニュース』 東京・水俣病を告発する会	2024年7月25日 夏号 No110 36-37頁
47	丹波博紀	祈りと学びの水俣巡礼 第2回 百間地蔵	『季刊 水俣支援 東京ニュース』 東京・水俣病を告発する会	2024年10月25日 秋号 No111 30-31頁
48	丹波博紀	祈りと学びの水俣巡礼 第3回 坪段	『季刊 水俣支援 東京ニュース』 東京・水俣病を告発する会	2025年1月25日 新年号 No112 29-31頁
49	土橋圭子	講演会 (専門家、教師 (保護者対象) 「養育・保育・教育と心の発達」 「こころの発達と脳科学」)	あわら市中央公民館 あわら市金津小学校	2024年7月28日 2024年4月13日
50	土橋圭子	親子教室 「防災・減災教室」 「コアット・プログラミング教室」 「陶芸教室」	あわら市中央公民館 あわら市中央公民館 金津創作の森 陶芸工房	2024年8月9日 2024年7月23日 2025年1月26日

51	藤岡毅	厚生労働省と日本弁護士連合会の令和6年4月19日付「障害年金制度の認定基準に係る早急な見直しを求める意見書」に関する意見交換	厚生労働省 本館1階 共用第4会議室	2024年6月26日
52	藤岡毅	2025年・年金制度改革に向けて「障害年金法研究会」からの国への提言	神奈川大学法学研究科 法学・政治学総合演習	2024年7月13日
53	藤岡毅	障害年金制度改革に向けて2024年3月6日付「障害年金法研究会」4月19日付「日本弁護士連合会」国への提言について	特定非営利活動法人日本障害者協議会政策委員会 障害年金改革 その1	2024年7月25日
54	藤岡毅	地域での障害者の自立生活を支える弁護士の活動	知的障害のある人の自立生活を考える会	2024年8月8日
55	藤岡毅	重度障害者の介護保障の充実を目指す弁護士の取組み～松戸市 ALS 介護保障訴訟を中心に～	関西学院大学大学院司法研究科&日本弁護士連合会主催 第10回公法系訴訟サマースクール	2024年8月30日
56	藤岡毅	障害年金改革 その1	「全ての人の社会」特定非営利活動法人日本障害者協議会機関誌	2024年9月号
57	藤岡毅	障害年金制度改革に向けて2024年3月6日付「障害年金法研究会」4月19日付「日本弁護士連合会」国への提言について	障害年金業務研修会	2024年9月8日
58	藤岡毅	障害年金改革 その2	「全ての人の社会」特定非営利活動法人日本障害者協議会機関誌	2024年10月号
59	藤岡毅	優生保護法大法院判決から考えること	参議院議員会館101号・全国公的介護保障要求者組合主催	2024年11月5日
60	藤岡毅	松戸市 ALS24 時間介護保障訴訟～家族の介護時間をゼロとした判例の意義～	介護保障を考える弁護士と障害者の会全国ネット 12周年シンポジウム	2024年11月23日
61	藤岡毅	障害者の権利	金沢大学法科大学院	2024年11月26日
62	藤岡毅	弁護士と障害年金 - 素朴な疑問 A B C	全国トラブルシューター弁護士ネットワーク	2024年12月16日
63	藤岡毅	弁護士が日常業務の中で虐待事件にどのように関わるかの一例の報告 都立特別支援学校における教員の児童への虐待例	障害と人権全国弁護士ネット 学習会	2025年2月10日
64	藤岡毅	2024年3月6日付「障害年金法研究会」4月19日付「日本弁護士連合会」国への障害年金改革提言づくりを通して障害者の所得保障のあり方を考える！	特定非営利活動法人日本障害者協議会特別セミナー	2025年3月8日
65	藤岡毅	在宅福祉における国庫負担基準の問題点等	参議院予算委員会 参考人答弁	2025年3月18日
66	藤岡毅	国の障害年金「無改革」に対する障害年金法研究会の共同抗議声明の申入れ及び厚生労働省年金局との意見交換	厚生労働省 共用第一会議室	2025年3月25日
67	藤岡毅	私の弁護士業務の実践から	流通経済大学法学部	2024年4月23日～24日
68	萩原浩史	【招待】地域相談支援の制度史	令和6年度大阪府相談支援従事者専門コース別研修「地域移行支援・地域定着支援コース」、大阪府庁新別館南館、大阪市	2024年6月18日
69	萩原浩史	【招待】地域活動支援センター28史——私の実践報告と自分史の再確認	大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会、エルおおさか、大阪市	2024年7月18日
70	萩原浩史	【招待】地活ってなに？——50年の変遷から考える	大阪市地域活動支援センター（生活支援型）連絡協議会、アテナ平和、大阪市	2025年1月31日
71	玉井隆	ナイジェリアの治安機関による超法規的暴力と人々の苦難	龍谷大学社会科学研究所	2024年12月14日
72	玉井隆	“異文化”を旅する—アフリカでのフィールドワークの経験から—	杉並区立中央図書館	2024年12月7日

73	Takashi Tamai	Mechanisms of violence and the potential of social media in victims' testimonies	Roundtable / The 94th ASC Seminar: Emergence of paths in Africa: Considering elements of searching for a better life under social crisis	2024年11月9日
74	玉井隆	複雑なことを複雑なまま理解し、問い続けること	比較文化	2025年2月
75	志水洋人	在外研究の経験と自分なりの振り返り	自分なりに海外と付き合う～在外研究座談会～	2024年6月
76	志水洋人	テクノロジーとの「共生」を考える社会的視点:保健医療における個人情報利活用を題材に	日本ロボット学会 2024 年オープンフォーラム「Moonshot 目標 3 における倫理的・法的・社会的課題への対応——人と AI ロボットの共生社会を目指して」	2024年9月
77	志水洋人	AI ロボットがインフラになる未来?: 倫理的・法的・社会的課題	ムーンショット目標 3 公開シンポジウム 2025～最新の研究成果・AI ロボットを展示～	2025年3月
78	松岡弘之	「愛生保育所」運営記録にみる「未感染児童」の処遇	日本ハンセン病学会雑誌	2024年4月
79	松岡弘之	森田竹次「隣組長会控帖」について—戦後長島愛生園の不自由者たち—	岡山大学文学部紀要	2024年12月
80	松岡弘之	解説—小川正子とその時代	小川正子『小島の春』(河出書房新社、2024年、ISBN9784309039299)	2024年12月
81	松岡弘之	志戸坂峠を見守る開鑿碑	広報にしあわくら	2025年1月
82	松岡弘之	「わたしたち」のハンセン病問題—長島における「自治」の射程—	株式会社ココロエ編『長島愛生園フィールドワーク・ワークショップの記憶』(NPO 法人ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会世界遺産に向けたロードマップ委員会発行)	2025年3月
83	松岡弘之	平成 30 年 7 月豪雨災害により被災した史料の救済	令和 6 年度岡山県文化財等救済ネットワーク研修会	2024年11月
84	松岡弘之	ハンセン病療養所における「未感染児童」について	JST-RISTEX 医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的分析和アーカイブズ構築 2024 年度第 1 回ワークショップ	2024年12月
85	松岡弘之	ハンセン病関係資料の収集・保存・活用—その課題と可能性	熊本で考えるハンセン病資料	2024年12月
86	松岡弘之	小川正子とその時代—近代日本のハンセン病政策と臨床医	いま『小島の春』を読むということ	2025年1月
87	松岡弘之	太田正雄(木下壱太郎)のハンセン病研究について	ハンセン病資料館友の会講演会	2025年2月
88	松岡弘之	第 17 師団研究の射程—文献史学の立場から	第 1 回大学と戦争遺跡カンファレンス「大学と戦争遺跡—調査・保存・教育—」	2025年3月
89	サトウタツヤ	性格検査「MBTI」、採用活動にまで 若者に人気、根拠には疑問も	朝日新聞	2024年8月
90	長瀬修	立岩真也と国際性	障害学研究 (21209) 209-215	2024年11月
91	長瀬修	国連障害者権利委員会初の知的障害者委員: ロバート・マーティン卿の偉大な魂	手をつなぐ (827) 14-15	2025年1月
92	Nagase, Osamu	Tateiwa Shinya (1960 to 2023) and International Vision	Ars Vivendi Journal	2025年3月
93	NAGASE Osamu	Droits sociaux et droits-libertés	Alter	2025年3月
94	大谷いづみ	立岩真也先生を悼む	立命館生存学研究 VOL8, 97	2025年
95	大谷いづみ	わたしのオランダ	さんしゃ Zapping, Vol. 39 No. 2 [207 号]	2025年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	姫野友紀子	International Neuroethics Society	Neuroethics 2024 Outstanding Poster award	“Am I locked-in?” Illness trajectories and the experience of locked-in syndrome in Japan and Europe	2024年4月
2	三島亜紀子	公益財団法人アイヌ民族文化財団	最優秀賞	ちりましほのイタラマツ	2025年1月
3	柴垣登	日本特別ニーズ教育学会	文献賞	『インクルーシブ教育のかたち—都道府県ごとの特別支援	2024年10月

				教育の違いからー』春風社、2022	
4	丹波博紀	NPO 法人滝沢克己協会	滝沢克己賞	論文「わからなさへの定位」(『滝沢克己の現在』所収) に対して	2025年1月
5	サトウタツヤ	IBM Community Japan	情報処理学会デジタルプラクティス賞	教育現場へのICT導入を促進する意思決定過程の質的研究	2024年11月

7. 科学研究費助成事業 (科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	美馬達哉	生を辿り途を探す—身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	分担
2	美馬達哉	静磁場刺激を在宅ニューロリハに応用するために必要な基礎データの構築	基盤研究(B)	2022年4月	2027年3月	分担
3	美馬達哉	ゲノム編集や iPS 細胞等の先端医療技術や尊厳死等の問題を尊厳の毀損の観点から分析	学術変革領域研究(A)	2023年4月	2028年3月	分担
4	美馬達哉	クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生	基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	代表
5	美馬達哉	神経筋メタ・ネットワーク構造に基づく歩行介入戦略の開発	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
6	美馬達哉	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備—PPI の実践と共に	その他	2023年6月	2026年3月	分担
7	美馬達哉	中枢—末梢チューニングによる感覚障害のオンロセラピューティクスの創出	挑戦的研究(萌芽)	2023年6月	2025年3月	代表
8	美馬達哉	非侵襲ヒト静磁場刺激の創生	基盤研究(B)	2024年4月	2028年3月	分担
9	美馬達哉	傷/傷跡としての戦後日本—ポスト冷戦期における生政治と文学	挑戦的研究(萌芽)	2024年6月	2027年3月	分担
10	松原洋子	生を辿り途を探す—身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	分担
11	松原洋子	生命操作の倫理—生と死の自己決定をめぐる	基盤研究(B)	2022年4月	2025年3月	分担
12	松原洋子	ゲノム編集や iPS 細胞等の先端医療技術や尊厳死等の問題を尊厳の毀損の観点から分析	学術変革領域研究(A)	2023年4月	2028年3月	分担
13	松原洋子	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備—PPI の実践と共に	その他	2023年6月	2026年3月	分担
14	伊東香純	生を辿り途を探す—身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	分担
15	伊東香純	精神障害者のグローバルな社会運動—アジア、アフリカ、南米に注目して	若手研究	2021年4月	2026年3月	代表
16	小川さやか	アフリカ諸国における暗号通貨を利用した国際取引に関する人類学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
17	小川さやか	原発性局所多汗症症状に対する不安尺度の開発及び不安軽減のための心理療法の開発	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
18	小川さやか	原発性局所多汗症の心理的症状の改善を目的としたセルフマネジメント法の開発と検証	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	代表
19	小川さやか	「ポスト・ヒューマン時代の〈人間経済〉: アジア、アフリカ、オセアニアからの再構築」	基盤研究(A)	2024年4月	2029年3月	分担
20	望月茂徳	インクルーシブな社会形成を促すインタラクティブメディアと体験デザインの開発	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表

21	高橋涼子	障害者政策における脱施設化のポリシークスと家族に関する比較研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
22	山下幸子	重症心身障害者の地域生活を構成する多様な資源と、その調整に関する研究	基盤研究(C)	2023年4月	2026年3月	代表
23	秋葉峻介	臨床倫理システムの理論的総仕上げと超高齢社会における高齢者のよい人生への貢献	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	分担
24	瀬山紀子	障害女性をめぐる差別構造および差別的状況についての横断的解明	基盤研究(C)	2022年4月	2026年3月	分担
25	瀬山紀子	公務非正規女性が支える専門職の持続可能性についての実証的研究	基盤研究(C)	2022年4月	2026年3月	分担
26	有田啓子	出産・育児に携わる日本在住性的マイノリティの生活実態の把握に関する研究	基盤研究(B)	2024年4月	2026年3月	分担
27	後藤基行	生を辿り途を探す—身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	分担
28	後藤基行	20世紀日本の医療・社会・記録—医療アーカイブズから立ち上がる近代的患者像の探求	基盤研究(A)	2021年4月	2025年3月	分担
29	後藤基行	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備—PPIの実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023年6月	2026年3月	代表
30	後藤智	デザイン思考の促進メカニズムおよびデザイン戦略としてのインクルージョンの評価	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	代表
31	桜井啓太	生活保護制度の行政水準格差に関する研究：地方自治体単位の運用実態と施策状況	基盤研究(C)	2022年4月	2027年3月	代表
32	桜井政成	ボランティアの個人主義化と地域福祉：クリティカル・ボランティアリング概念の可能性	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
33	川端美季	帝国日本植民地統治下の公衆浴場運動における清潔規範思想	挑戦的研究(萌芽)	2024年6月	2027年3月	代表
34	川端美季	近代日本における清潔規範の創出と展開	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
35	富永京子	ミュニシパリズムと市民・住民のエンパワメントに関する映像社会学的研究	基盤研究(B)	2024年4月	2026年7月	分担
36	富永京子	社会的権利要求への冷笑・揶揄・攻撃をめぐる戦後若者史	基盤研究(C)	2022年4月	2024年3月	代表
37	富永京子	観光が浮かび上がらせる移動のポリテックス—クリティカル・ツーリズムの視点から	挑戦的研究(萌芽)	2022年6月		分担
38	長瀬修	障害者権利条約の東アジアにおける実施と障害者組織をはじめとする市民社会の関与	基盤研究(C)	2024年4月	2028年3月	代表
39	永浜明子	大学生の差別意識の心的過程：偏見の正当化・抑制モデルおよび見下しの理論に着目して	基盤研究(C)	2024年4月	2029年3月	代表
40	西成彦	亡命作家ゴンブローヴィチの言語遍歴のなかのフランス語に関する比較文学的研究	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	代表
41	姫野友紀子	L型カルシウムチャネル(Cav1.3)におけるイオン選択性の実験検証と理論構築	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	分担
42	村本邦子	別居親子の実態と親子法制度の学際的検証—法制度整備に向けた面会交流の実態分析—	基盤研究(B)	2022年4月	2025年3月	分担
43	安田裕子	顧客の価値実現を支援する営業の理論化と社会実装	基盤研究(C)	2023年4月	2026年3月	分担
44	安田裕子	TEAとイメージネーションが拓く文化を創造する看護教員の力量形成プログラム開発	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	分担
45	安田裕子	理論と実践の往還を通じた越境的学びによる日本語教師養成プログラムの開発と検証	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	分担

46	安田裕子	女性の産後育児支援の多様性及び母子の well-being への影響の日中韓比較研究	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2020年4月	2025年3月	分担
47	安田裕子	司法面接における開示への動機づけを高める要因の研究	基盤研究(C)	2019年4月	2025年3月	分担
48	宮脇 正晴	最高裁判所・高等裁判所における隠れた違憲審査の発掘—法分野横断的な司法行動研究—	基盤研究(C)	2023年4月	2028年3月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	大谷いづみ	当事者視点による生命倫理教育・医療倫理教育に関する研究	(公財)生存科学研究所研究助成(継続)	2024年4月	2025年3月	代表
2	大谷いづみ	障老病異アーカイブズ・プロジェクト_立岩真也所長の遺志を未来に	READYFOR 株式会社(クラウドファンディング)	2024年5月		代表
3	後藤 基行	医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的な分析とアーカイブズ構築	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター (RISTEX) 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム	2022年10月	2026年3月	代表
4	富永京子	若者たちを孤立と不安定から救う方途としての職住同一型協同組合に関するアクション・リサーチ	公益財団法人ひと・健康・未来研究財団・研究助成 (500,000 円)	2023年9月	2024年8月	代表
5	富永京子	空き家を活用した都市空間形成による住民間のセーフティネット構築	公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金・学術・研究助成 (750,000 円)	2023年10月	2025年3月	代表
6	姫野友紀子	閉じ込め症候群の人びとの生きられた経験の語りにもみる生命のリアル	女性研究者 国際共同研究活動支援制度	2024年4月	2025年3月	代表
7	望月茂徳	インクルーシブなデジタルメディアの開発と検証: 障害のある人のための創造的な活動とリハビリテーションのデザイン	公益財団法人トヨタ財団 2019 年度 <特定課題> 「先端技術と共創する新たな人間社会」	2020年4月	2024年6月	代表
8	秋葉峻介	終末期の意思決定における「主体」概念再考: 医療・ケア、あるいは自ら死にゆくことをめぐって	公益財団法人ヒロセ財団・第 10 回 (2023 年度) 研究助成	2023年12月	2026年3月	代表
9	秋葉峻介	「変身 (metamorphose/metamorphosis)」としての老いと人生の最終段階	公益財団法人生存科学研究所・令和 7 年度助成研究事業	2025年3月	2026年3月	代表
10	美馬達哉	パーキンソン病関連疾患に対する革新的歩行リハビリテーション医療の創出	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	2024年4月	2025年3月	分担
11	美馬達哉	「認知症克服に向けた脳のレジリエンスを支えるリザーブ機能とその増強法の開発研究」	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	2024年11月	2025年3月	分担
12	伊東香純	教育研究助成のため(2024年度研究海外派遣援助・採択)	村田学術振興・教育財団	2024年7月	2025年3月	代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	なし							